

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：32681

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02011

研究課題名（和文）移民の習い事・教え事の継承・活用・変容の基礎研究 方法論的ナショナリズムの相対化

研究課題名（英文）Research on cultural teaching/learning experiences of migrants: Relativizing methodological nationalism

研究代表者

小澤 智子 (Ozawa, Tomoko)

武蔵野美術大学・造形学部・教授

研究者番号：20459978

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトでは、19世紀後半から20世紀前半の環太平洋地域（おもに日本、ハワイ、アメリカ合衆国）における人・もの・情報の移動に注目し、人びとの日常生活にかかわる経験や価値観について歴史学的な研究調査を行った。ナショナリズムとその影響が日常生活、とくに食文化にいかに浸透し、社会的な要因（とくにジェンダー、階級、人種・エスニシティなど）と個人との関係性を中心に検証した。本プロジェクトの成果の一部は、最終年度に出版物として公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、人びとの日常生活、とくに食にかかわる事柄に浸透するナショナルな要因に光をあて、ジェンダー、人種・エスニシティなどにかかわる社会的に構築される規範や期待がいかに歴史的につくられるかについて解明している。さまざまな記録を丁寧に検証することにより、あまり可視化されない政治的な概念や個人の言動について検証している。ナショナルな要因が個人の日常的な経験にどのような影響を与え、個人が社会的な要因に対してどのように応じるかについて論じている点がとくに意義深い。

研究成果の概要（英文）： This project focused on the mobility of people, things, and ideas in the transpacific region (mainly Japan, Hawai'i, and the United States) spanning the period from the late 19th to early 20th centuries and historically explored the experiences and conceptual notions rooted in the daily lives of people. Analysis concentrated on how nationalism and its influences effect daily experiences, particularly on food culture, as well as how social constructs, such as gender, class, race/ethnicity play out on personal levels. Some of the findings were published in book form during the final year of this project.

研究分野：地域研究

キーワード：移動 モビリティ ジェンダー 人種・エスニシティ 階級 ナショナリズム 日常 文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 科研プロジェクトの全体報告

### 1．研究開始当初の背景

従来の地域研究・移民研究・エスニシティ研究・マイノリティ研究・余暇研究では、人・もの・情報の移動とそれにかかわる文化は国境線に沿って調査され、国家などの集団の論理の一部として分析される傾向にある。たとえば、日本人移民・日系アメリカ人の歴史は、アメリカ史もしくは日米関係の限定的枠組みで考察されることが多い。このように、ある社会・国家の集団論の枠組みの中で移民とその文化を捉えることを「方法論的ナショナリズム」の問題と呼ぶことができ、その論理的な限界がすでに指摘されている。方法論的ナショナリズムに起する従来の研究は、結果的に、エスニック集団間の共通点や差異を浮き彫りにするが、同時にエスニック集団の境界線を強調する。本研究では、社会・国家などの集団論の中に個人（移民やその子供）を位置づけるのではなく、個人の日常生活の中にみられるさまざまな社会的な要因を歴史的に調査し記録する重要性を強調したい。

### 2．研究の目的

従来の研究動向を踏まえ、本研究では、多様な個人（移民とその子供）の「習い事」、「教え事」に関する調査を行ない、方法論的ナショナリズムを客観視し、マイノリティに関する古典的な同化論や排他論などの集団論を再考し、日常における実態や個人の行為者性を解明することを試みた。本研究の目的は、従来の研究では捉えきれない個人の文化活動やその意味合いをグローバルな視座を用いた新たな地域研究の枠組みで考察することにより、社会・国家などの集団論について論理的解釈を示すことであった。

### 3．研究の方法

研究方法としては、エスニック集団や集団レベルの関係性（伝統的な国際関係論等）を枠組みとするのではなく、あくまでも個人の日常の中のさまざまな文化活動を検証することにより、方法論的ナショナリズムを客観視することを意識した。そして集団・社会・国家に対峙させられる個人ではなく、個人の日常の中の集団・社会・国家をめぐる行動要因や行為者性を解明することを目指した。日本、ハワイ、アメリカ西海岸のアーカイヴスや博物館等を中心に、さまざまな史・資料を収集し、検証を行った。研究会での議論を重ね、多くの人びとに直接かわる「食」を切り口とし、いくつかの事例の分析を深めた。

#### 4. 研究成果

成果の一部として刊行した出版物の題目ともくじは、以下のとおりである。

書籍の題目：『食と移動の文化史 主体性・空間・表象をめぐる抗い』

英文タイトル：*A Cultural History on Food and Mobility: Agency, Space, and Representation*

#### もくじ

序章 板津木綿子

第一章 「『日本茶』の環太平洋史 横浜での製茶貿易とアメリカでの消費」  
小澤智子

「コラム 横浜の風刺画誌『ジャパン・パンチ』にみる飲食物」 小澤智子

第二章 「料理を学ぶこと 戦前の『日米新聞』における料理をめぐる言説を通して」 北脇実千代

「コラム ホワイトハウスの『台所事情』」 小澤智子

第三章 「はかなく消えゆく行為に紡がれた空間 一九二〇年代のロサンゼルス  
のピクニック文化を解く」 板津木綿子

第四章 「ハワイの砂糖黍プランテーションにおける食文化の交差」 北脇実千代

第五章 「料理書『日本料理と作法』 恵泉女学園への留学生による「日本文化」の表出」 小澤智子

本書では、19世紀後半から20世紀前半の環太平洋地域(おもに日本、ハワイ、アメリカ合衆国)における人・もの・情報の移動に注目し、人びとの日常生活にかかわる経験や価値観について歴史学的な研究調査を行っている。ナショナリズムとその影響が日常生活 とくに食文化 にいかに浸透し、社会的な要因(とくにジェンダー、階級、人種・エスニシティなど)と個人との関係性を中心に検証している。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 北脇実千代	4. 巻 13
2. 論文標題 戦前の女性の越境と洋裁技術の移転 日米で洋裁を教えた小川信子の事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JICA横浜海外移住資料館研究紀要	6. 最初と最後の頁 31-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 板津木綿子	4. 巻 第5号
2. 論文標題 20世紀初頭ロサンゼルスにおけるピクニックの文化的トポロジー：孤独感とコミュニティ形成の試論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 余暇ツーリズム学会誌	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 板津木綿子
2. 発表標題 「日本のレジャー研究におけるマイノリティ研究の課題と意義：LGBTのレジャーを例に」「余暇を取り戻せ！」
3. 学会等名 カルチュラル・タイフーン
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板津木綿子
2. 発表標題 「レジャースタディーズにおけるマイノリティ研究の意義に関する試論」
3. 学会等名 余暇ツーリズム学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板津木綿子
2. 発表標題 「移民体験の相対化 20世紀前半の南カリフォルニアにおけるピクニック文化を例に」
3. 学会等名 移民研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北脇実千代
2. 発表標題 「戦前の日本人移民社会における料理講習会に関する一考察」
3. 学会等名 移民研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小澤智子
2. 発表標題 「東京へ留学中の日系アメリカ人女生徒がつくった料理本(1941年)」
3. 学会等名 移民研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北脇実千代
2. 発表標題 「戦前のハワイ日系人社会における裁縫学校と洋裁技術の普及」
3. 学会等名 中央大学人文科学研究所 「南北アメリカの歴史、社会、文化」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板津木綿子
2. 発表標題 余暇史研究における「他者」の再考：グローバルヒストリーへの展開に向けて
3. 学会等名 余暇ツーリズム学会レジャー・スタディーズ研究科部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板津木綿子
2. 発表標題 レジャー政治学への招待状
3. 学会等名 UTalkシリーズ（東京大学情報学環主催）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板津木綿子
2. 発表標題 シンポジウムB「アメリカ史の中の『余暇』」コメント
3. 学会等名 日本アメリカ史学会 第14回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板津木綿子
2. 発表標題 余暇史研究におけるエスニシティ・時間・空間の試論：20世紀前半のカリフォルニアを例に
3. 学会等名 余暇ツーリズム学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北脇実千代
2. 発表標題 余暇活動とビューティ・カルチャーの交差：戦前の日系アメリカ人社会の事例から
3. 学会等名 日本アメリカ史学会 第14回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板津木綿子
2. 発表標題 アーバン・スタディーズにおける資料（写真・統計・地図）の使い方とその読み解き方について
3. 学会等名 本プロジェクト研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小澤智子
2. 発表標題 料理書、料理本、レシピ、料理学校の歴史 研究動向の分析
3. 学会等名 本プロジェクト研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Tomoko Ozawa, ed., Yuko Itatsu, Michiyo Kitawaki, et. al.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 1-287
3. 書名 Japaneseness across the Pacific and Beyond	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	板津 木綿子  (Itasu Yuko)  (80512334)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授    (12601)	
研究分担者	北脇 実千代  (Kitawaki Michiyo)  (20369458)	日本大学・生物資源科学部・准教授    (32665)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関